

J A 自己改革推進レポート（J A 鳥取西部） 9 月号

（1）アスパルで旬みつけPRイベント

J A 鳥取西部教育広報課は8月4日、J A グループのスマートフォンアプリ「J A 旬みつけ！」の登録拡大キャンペーンを、農産物直売所ふれあい村アスパルで初めて開催した。「旬みつけ！」は、J A や直売所が配信する、旬の農産物やイベントなどの情報を受け取れる無料のアプリで、直売所をきっかけにして、准組合員や地域住民に J A の取り組みなどを伝えることが目的。



登録キャンペーンは、同店内入口に特設のブースを設け、職員が2次元コード（QRコード）を印刷したチラシを手にダウンロードを勧め、約100件のダウンロードを確認した。アプリの登録をした米子市内在住の60代の女性は「アプリの存在は知っていたが、登録方法わかりにくくインストールしていなかった。今回のイベントで丁寧に教えてもらい登録できたので良かった」と話した。

J A 直売所の担当者は、「以前よりフェイスブックを活用していたので、「旬みつけ！」と合わせ情報を効果的に発信することで、農産物に関する地域消費者への訴求力を高めたい」と話した。

（2）農作業の無料職業紹介所開設

J A 鳥取西部営農部営農企画課は、国の認可を受け、8月1日から農作業の無料職業紹介所を開設し、運営を始めた。

繁忙期における労働力の確保や、農業者の支援を進め生産性と農業所得向上を図るのが目的で、農業者の高齢化は進み、人手不足が深刻化する中、J A は通年の労働力確保により生産力の維持に期待している。



職業紹介所は、営農企画課に窓口を置き、求職者、求人者の双方の申し込みを受け付け、マッチングを進め、J A は両者のパイプ役となり、3者面談するなど円滑な雇用関係の締結につなげる。また、農家の雇用は、繁忙期だけの雇用が主であり、通年働く環境が整備されていないため、当面は J A の運営する共同選果施設などの求人と合せ、雇用期間を組み合わせることで、通年働く環境を整える計画としている。

営農企画課の高嶋祐一次長は「農家の人手不足解消につながるだけでなく、就職者には、農業に携わることで地域農業の理解者となってほしい。」と話し、「無料職業紹介事業で、地域農業の経営安定に貢献し、農家の力となれるように取り組んでいく」と気を引き締めた。

(3) 中山支所終活セミナー

J A鳥取西部中山支所では7月23日、「ラシュールなかやま」において終活セミナーを開催した。昨年が続いて2回目の開催となり、女性会の会員を中心に30名が参加した。LAによる「相続税、贈与税」についての説明や、外部講師による「生前整理」についてのご案内では熱心に耳を傾けられ、葬祭センター地頭センター長による「お墓や仏壇」についての話には大きく頷いている方々もいた。



また、昨年アンケートを踏まえ、ラシュールとの意見交換会も行い、葬儀についての質問や今後ラシュールをより良くするための意見も活発に発言された。セミナー終了後のアンケートでは、「2回目の参加だが総合的な内容で良かった」「生前整理を始めるきっかけになった」など好意的な反応が多く、「一度では忘れてしまうのでぜひ続けてもらいたい」との意見もあった。中山支所では今後も組合員の葬祭事業への理解を深めるとともに、相続税対策などの案内を行っていく。

(4) 日南町職域バレーボール大会への参加

9月4日～6日に職域バレーボール大会があり、町内勤務職員、町内在住職員が参加した。共済課 LA 安達貴之職員が「大会を通じて職場同士の交流を一層深め、正々堂々とプレーする事を誓います」と選手宣誓し、男子8チーム、女子3チームの熱戦が繰り広げられた。選手のみならず、応援に来られた方やお子様まで、幅広く交流できた大会だった。今後も継続して参加する予定。